

市町村名	本別町	活動地区名	本別地区	活動団体名	ほんべつ☆うきき未来らぼ		
活動の目標		各種団体に属さず地域活動に参加できていなかった住民同士の繋がりを創出し、コミュニティを形成する。そこから老若男女を問わず皆で地域における課題を抽出し、解決に向けた具体的な行動を起こし、住民一丸となって地域の活性化と未来に向けた持続可能なまちづくりを目指す。					
活動の方向	No.	活動の目的	活動の内容		目標（数量・定性）		
	①	住民同士の繋がりを創出し、地域における連携、協力体制を強化する。住民主体の持続可能なまちづくりに向け意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ほんべつ☆うきき未来らぼミーティング</li> <li>◆住民主体のまちづくりに向けた研修会</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ミーティング開催（6回/年）</li> <li>◆まちづくり研修会開催（1回/年）</li> <li>◆幅広い地域住民の参加と意識の共有（随時）</li> <li>◆先進地視察による勉強会の実施（1回/年）</li> </ul>		
	②	関係人口の増加や移住者等とのコミュニティを形成し、都市と地域や地域内での交流を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆体験イベントをもとに町内外の方との交流を深める。</li> <li>◆移住されてきた方等を紹介カードにて発信し地域内での活動を紹介、応援する。</li> <li>◆新たな発想で町内スポットを巡礼地化し、発信・集客を目指す。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆移住者交流イベントの開催（1回/年）</li> <li>◆イベント用ユニフォームの製作（1回/年）</li> <li>◆紹介カード作成・配布（3名/年）</li> <li>◆何かの巡礼地化を検討し、スポット探し・発信を行う（1回/3年）</li> </ul>		
	③	新たな観光資源を発掘・発信することによって町内の魅力を多くの方々に知ってもらう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆町内の自然を生かした様々なアクティビティの検討開発</li> <li>◆発掘したアクティビティの体験会の開催</li> <li>◆実証に向けた体制の検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆先進地視察、各アクティビティ専門家の講演（1回/年）</li> <li>◆発掘アクティビティの体験会の開催（1回/年）</li> </ul>		
	④	子供たちと本別だから出来る事の体験活動や地域学習を通して郷土愛を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子供たちが町を一度離れても戻ってきたいと思ってもらえるような活動をする。</li> <li>◆特産物での食育体験や屋外活動体験</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地元産食材（豆・小麦など）を使用した食育体験・メニュー開発（1回/年）</li> <li>◆屋内外スポーツ体験等の実施（1回/年）</li> </ul>		
	⑤	地元食材のアピールや町民・学生と連携したフードロス対策への取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地元産食材を活用した調味料（万能タレ）の試作・開発</li> <li>◆試食会・アンケート収集により地域での『このみ』の調査</li> <li>◆地域食材の可能性のリサーチ、食育推進計画作成検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆試作品開発会の実施（3回/年）</li> <li>◆試作品試食会・広報・アンケートの実施（1回/年）</li> <li>◆食育推進計画作成の検討会議の実施（2回/年）</li> </ul>		
	⑥	各活動の情報発信を行うことによって町内外への認知度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各活動担当者からの活動報告をSNS等にて発信する。</li> <li>◆情報収集により各活動担当者への情報提供を行う。</li> <li>◆クリエイター等と協力して幅広い発信にてアピールする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆チラシ・SNS等への掲載・アップロード（随時）</li> <li>◆町内外の様々な情報の収集・情報提供（随時）</li> <li>◆アートを活用しての発信の検討会実施（1回/年）</li> </ul>		
3年間の活動プロセス	関連No.	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額
	①	全体ミーティング	0千円	全体ミーティング	0千円	全体ミーティング	0千円
	①	まちづくり研修会	27千円	まちづくり研修会	58千円	まちづくり研修会	60千円
	①	先進地視察	0千円	ユニフォーム制作	210千円	先進地交流視察	220千円
	②	街コンイベント	0千円	交流イベント開催	70千円	地域交流イベント開催	80千円
	②					紹介カード作成	120千円
	②	紹介カード作成	0千円	紹介カード作成	270千円		
	③			講演・体験会	104千円	アクティビティ体験会	194千円
	③	アクティビティ体験会	68千円	川のごみ拾い	48千円	川のごみ拾い	66千円
	④	食育体験	24千円	食育体験	60千円	食育体験	40千円
	④	講演会	29千円	ワークショップ体験	20千円	工場農場アクティビティ体験ツアー	80千円
	④	企業見学	0千円	写真・イラスト展	30千円	写真・イラスト展	40千円
	④	写真展	0千円	食育メニューレシピ集制作	50千円	地域食堂	30千円
	⑤	試作品開発	11千円	試作品開発	100千円	オリジナルタレ試作会	15千円
	⑤	試作品試食会	0千円	試作品試食会	50千円	オリジナルタレ開発費	140千円
	⑤	食育推進計画検討会議	0千円	食育推進計画検討会議		オリジナルタレ試食会	35千円
	⑥	広報チラシ	0千円	広報チラシ	140千円	広報チラシ	80千円
	⑥	アート活用検討会	0千円				
合計		159千円		1,210千円		1,200千円	
関係機関・団体	本別町役場						
連携・協力機関・団体	本別町観光協会		本別町農業協同組合・青年部・女性部		道立農業大学校		
	本別町商工会・青年部・女性部						

## 別記様式第3号

## 令和6年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 地域活動支援事業実施計画

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町		活動地区名	本別地区	
活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ				
関連No.	内容	項目(費目)	金額(円)	積算根拠	
	まちづくり研修会、 全体ミーティング	07_報償費 08_旅費	30,000 30,000	札幌～本別 1泊2日 1日バス借上費	
	先進地交流視察	13_使用料及び賃借料	220,000		
	小計		280,000		
②	交流人口イベント開催	10_需用費 13_使用料及び賃借料	45,000 35,000	A1ポスター1500円×30枚 音響スピーカー等1式 配布カード200円×600枚	
	紹介カード作成	10_需用費	120,000		
	小計		200,000		
③	フライフィッシング講習・体験会	11_役務費 13_使用料及び賃借料	72,000 42,000	24,000円×3時間 カヌー等の使用料 材料費等 ウェダー8000円×6 ライフジャケット3000円×6	
	気球体験会	13_使用料及び賃借料	80,000		
	川のごみ拾い	10_需用費	66,000		
	小計		260,000		
④	食育体験	07_報償費 10_需用費 08_旅費	20,000 15,000 5,000	5,000円×2時間×2回 材料費等 旅費	
	工場農場アクティビティ体験ツアー	10_需用費	80,000		
	写真イラスト展	10_需用費	40,000		
	地域食堂食材費	10_需用費	30,000		
	小計		190,000		
⑤	オリジナルタレ試作会	10_需用費 13_使用料及び賃借料	10,000 5,000	材料費等 会場費 材料費等 材料費等 会場費	
	オリジナルタレ開発委託費	12_委託費	140,000		
	オリジナルタレ試食会	10_需用費	25,000		
	小計	13_使用料及び賃借料	10,000		
⑥	広報チラシ	10_需用費 11_役務費	50,000 30,000	印刷代 折込代	
	小計		80,000		
合計					
		07_報償費 08_旅費 10_需用費 11_役務費 12_委託費 13_使用料及び賃借料	50,000 35,000 481,000 102,000 140,000 392,000		
			1,200,000		

## 別記様式第4号

令和5年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業  
実践活動の評価・検証結果

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町	
活動地区名	本別地区	
活動団体名	ほんべつ☆うき未来らぼ	
活動実績の当初・変更計画との比較	当初・変更	実績
	研修会・先進地研修・イベント 紹介カード アクティビティ体験会 食育体験 その他予定事業 タレ試作会・試食会 情報発信	先進地は行けなかったが研修会、イベントは実施 新たに作成し今後役場でも配布予定 ごみ拾い、アクティビティ研修実施 様々な体験の提供をすることが出来た おおむね開催できた。 ほぼ完成し、OEM先等の検討に入った みんなでシェアしSNSフォロワーが増えた。
活動の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年程では無いがコロナ渦の影響を多少引きずっており開催できない事多少あった。</li> <li>・コロナが落ち着いたが出る習慣を失った方が多く集まる人数が少なくなっていた。</li> <li>・予算執行がだいぶスムーズになったがその場での購入が出来ない等手出しすることが多かった。</li> <li>・情報発信部門のメンバーがほぼいなくなり手分けしたが回数が少し少なくなりました。</li> <li>・タレを製品化した時の販売元や収益の扱いについて考えなければならない。</li> </ul>	
次年度の活動方向 (活動の改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが落ち着きだしているので計画したものは積極的に開催していきたい。</li> <li>・新メンバーも含め再度組織づくりを行っていく。</li> <li>・予算使用のためには計画を早め早めで行っていく。</li> <li>・フィッシング体験は自分達だけでも開催できるようにしていく。</li> <li>・地域に活動が認知されてきたので住民と関わられるようなことを進めていく。</li> <li>・タレ商品化に向けて委託先予定先と話を進めていく。</li> <li>・SNSを使用して各らぼの発信や企業紹介を途切れないように行う。</li> </ul>	
活動状況写真 (別添可)	別添による	
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	昨年度と比較し、徐々に外部からの参加者も増えたイベントが多くなり、また、実施の回数も順調に増えてきている。 ただし、課題としてイベント通知のタイミングが遅れており、適期に募集できれば参加人数が増加できたと考えられる。 令和5年度はほんべつ☆うき未来らぼが、他の団体と連携してイベントを行うなど、本別町内でもほんべつ☆うき未来らぼの活動が認識されてきており、コロナ期間中の自粛中に減少したメンバーの数も増えてきており、今後の活動の活発化が期待できる。	

活動状況写真

【全体ミーティング】

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



【食育体験（とうふ作り）】



【勇足中学校食育体験（ピザ作り）】



【食育活動による  
地元食堂との連携】

勇足中生考案 ピザや豆丼



地元の味 若者がつくる

【河川ゴミ拾い】



【本別公園ゴミ拾い】



【アクティビティ体験会】



北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町		活動地区名	財田地区		活動団体名	財田米ブランド推進委員会			
活動の目標	当地区で生産されている財田米について学ぶ機会を設け、近隣地域住民や子供たちの地域産業に対する理解の醸成を図る。また、先人たちが築き上げてきた「財田米」への誇りや愛着を育むことで生産者の意欲向上と集落機能の維持につなげる。 財田米の付加価値向上に向けた取組とPR活動を行い、認知度及び地域ブランド力の向上や顧客満足度の上昇、洞爺湖町への観光客の入り込み増を目指し、地域の活性化につなげる。									
活動の方向	No	活動の目的		活動の内容		目標(数量・定性)				
	①	・財田米の啓蒙活動による付加価値向上への取り組み ・財田米の地産地消への取り組み		・HP、ポスター、パンフレット等活用によるPR ・プロモーションビデオの製作 ・地元女性を講師に財田米に合う惣菜(おかず、ご飯のお供)研修会開催と消費者へのメニュー配布		・HPの開設、SNSの更新(随時) ・ポスター作成 必要に応じて計上 ・パンフレット、ステッカー作成 必要に応じて計上 ・財田米に合う料理研修会開催 1回/年				
	②	子供から大人までを対象とした食育の展開による地産地消活動を推進し、財田米に対する理解の醸成を図る		・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)※洞爺地区 ・財田米の寄贈による食育活動(虻田地区、洞爺湖温泉地区の小・中・高に財田米新米を寄贈し、学校給食に活用してもらう。)		・体験学習 2回/年(洞爺地区) ・財田米の給食による提供(虻田・洞爺湖温泉)				
③	財田米の安定販売に向けた認知度向上への取り組み		・都市部での認知度向上のためのPR活動 ・地域イベント(洞爺湖マラソン、大収穫祭等)を活用した試食会等の開催 ・財田米を使用している店(地元飲食店・直売所)の紹介MAP作成		・都市部での認知度向上のためのPR事業 1回/年 ・試食会の開催 2回/年 ・紹介MAPの作成 6,000枚/年					
3年間の活動プロセス	関連No	令和4年度		令和5年度		令和6年度				
		内容		予算額	内容		予算額	内容		予算額
	①	・HPの開設 ・ポスター、パンフレット、ステッカー等作成		980千円	・パンフレット、ステッカー等増刷 ・地元女性を講師に財田米に合う惣菜等の研修会開催		・423千円 ・137千円	・ステッカーの増刷、トートバッグの作成		・540千円
	②	・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)		20千円	・地元小学生を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)		0千円	・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等) ・虻田地区における食育活動及び期間限定での学校給食への活用		・0千円 ・105千円
③				・都市部での認知度向上のためのPR活動(※農業農村ふれあいフェスタin赤れんが) ・地域イベントを活用した試食会等の開催(洞爺湖マラソン)		・227千円 ・200千円	・都市部での認知度向上のためのPR活動 ・地域イベントを活用した試食会等の開催(洞爺湖マラソン、大収穫祭etc) ・財田米を販売・提供している店の紹介MAPの作成 ・財田米の美味しさを評価する分析の実施		・170千円 ・155千円 ・170千円 ・60千円	
関係機関・団体	洞爺湖町役場		胆振農業改良普及センター		洞爺湖町教育委員会		洞爺湖町観光協会			
連携・協力機関・団体	とうや湖農業協同組合									

令和6年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業  
地域活動支援事業実施計画

【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町	活動地区名	財田地区	
活動団体名	財田米ブランド推進委員会			
関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠
①	・財田米PRに向けたパンフレット、ステッカー等の作成	10_需用費	120,000	PR用ステッカー(60mm×60mm)印刷代(1枚単価6円×20,000枚)
		10_需用費	210,000	PR用ステッカー(40mm×40mm)印刷代(1枚単価6円×35,000枚)
		10_需用費	210,000	トートバック作成費用(1個600円×350個)
②	・食育活動及び期間限定での学校給食への活用	10_需用費	105,000	450人(虻田地区の小中高)×10日×65g/杯=300kg 給食活用の財田米買い上げ費用(ななつぼし3,500円/10kg×30袋)
③	・地域イベントを活用した試食ブースの設置	10_需用費	45,000	イベント用の財田米買い上げ費用 1回分(ゆめびりか4,000円/10kg×6袋、ななつぼし3,500円/10kg×6袋)
		10_需用費	110,000	のぼりの作成費用(5,500円×20本)
③	・都市部での認知度向上のためのPR活動	10_需用費	15,000	イベント用の財田米買い上げ費用 1回分(ゆめびりか170円/300g×50袋、ななつぼし130円/300g×50袋)
		10_需用費	45,000	イベント用の財田米買い上げ費用 1回分(ゆめびりか4,000円/10kg×6袋、ななつぼし3,500円/10kg×6袋)
		08_旅費	80,000	財田米ブランド推進委員会 委員旅費(1名当たりの日当(1泊2日)13,100円+バス往復代金6,900円)×4名分
		13_使用料及び貸借料	30,000	販売促進イベント用の販売場所賃貸料(1日30,000円×1日間)
③	・財田米を使用した地元飲食店及び直売所PRのための紹介MAP作成	10_需用費	60,000	紹介MAP印刷代(1枚単価10円×6,000枚)
		10_需用費	110,000	のぼりの作成費用(5,500円×20本)
③	・生産者ごとの財田米を分析することで、食味などの米の中身評価を実施	11_役務費	60,000	分析依頼手数料 5,000円×12戸=60,000円
合計			1,200,000	
費目計		07_報償費	0	
		08_旅費	80,000	
		10_需用費	1,030,000	
		11_役務費	60,000	
		13_使用料及び貸借料	30,000	

令和5年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業  
実践活動の評価・検証結果

【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町	
活動地区名	財田地区	
活動団体名	財田米ブランド推進委員会	
活動実績の当初・変更計画との比較	<p>当初・変更</p> <p>①財田米の啓蒙活動用PR資材の作成及び印刷 (作成)トートバッグ、(印刷)パンフレット、ステッカー ②財田米における地産地消を図る食育活動の実施 ・地元の小学5年生を対象とした田植え体験(5/23実施)、稲刈り体験(9/7実施) ・「ごはんのおとも講習会」(12/10開催) ③「洞爺湖マラソン」(5/21開催)や「農業農村ふれあいフェスタin赤れんが」(9/30開催)における町内外でのPR活動を実施</p>	<p>実績</p> <p>①財田米の啓蒙活動に活用することで、町内外における財田米の認知度向上につながった。 ②地元の小学生への食育活動の実施により「財田米」の価値・美味しさについて学ぶ機会ができた。また、住民向けの財田米の料理教室を実施することで、財田米を含む地元食材の地産地消の取組みにつながった。また、「ごはんのおとも講習会」の実施により地域住民へ財田米の美味しさを認識してもらい、知名度向上と地産地消活動を展開できた。 ③町内外の財田米PR活動を展開し、住民や町外からの参加者等のイベント参加者に対する「財田米」の認知度向上に取り組んだ。</p>
活動の課題	<p>R5当初計画に応じた事業展開及び目的は達成はできたと考えるが、最終年に向けて実践活動に伴う目標を達成できる様、活性化を図っていきたい。</p> <p>(良食味米である財田米について、担い手が将来的に持続的に財田米を作付けしてもらえる様、販路、価格を含め魅力的な品種として維持を図る。また洞爺湖の観光地とコラボし、財田米を購入・食事を目的として来客してもらえる様、ブランド化も模索し推進する。)</p>	
次年度の活動方向(活動の改善点等)	<p>・新たなPR資材として「紹介MAP」の作成を検討しているが、原盤作成は地域の人材を活用する等、地域で展開できる方策に取り組みながら、地域主体で展開できる基盤づくりに取り組みたい。</p>	
活動状況写真(別添可)	<p>別紙資料のとおり</p>	
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	<p>財田米の町内での認知度・知名度も徐々に向上しており、地産地消の取組みも浸透してきた。本年度は最終年度であり、洞爺湖の観光名所とあわせて財田米の認知度を更に向上させ、来客者の増加も進めたい。</p>	

## 『財田米ブランド推進委員会』について

《令和5年度》

財田米ブランド推進委員会の活動内容

- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 5 / 21 | 洞爺湖マラソンで財田米 PR 活動を実施（とうや水の駅付近）      |
| 5 / 23 | 塩田農園所有水田での田植え体験学習（とうや小5年生11名）       |
| 8 / 30 | 北海道ふるさと・水と土保全対策指導員現地研修会（財田自然体験ハウス）  |
| 9 / 7  | 塩田農園所有水田での稲刈り体験学習（とうや小5年生10名）       |
| 9 / 30 | 農業農村ふれあいフェスタ in 赤レンガでの財田米（新米）PR 即売会 |
| 11 / 1 | JPO1まつり（※札幌駅地下歩行空間）で財田米 PR 活動を展開    |

### ■ 洞爺湖マラソンで財田米 PR 活動を実施（とうや水の駅付近）

令和5年5月21日に洞爺湖マラソンが開催され、フルマラソンのコース沿道にある「とうや水の駅」エイドステーションで、フルマラソンのランナーに対して、財田米のおにぎりを提供しました。

提供したおにぎりは、ななつぼし60kgとゆめぴりか60kgの計120kg分の財田米であり、雨が降りしきる悪天候の中、事務局職員の他、ボランティアスタッフの方々の協力もあり、財田米の食味を全国各地から参加したランナーに広く伝えることができました。

参加者が感想を記入するインターネットのサイトでは「おにぎりが美味しい」と財田米に関する感想が多数あり、おにぎりを1つ食べ終えた後におにぎりをもうひとつもらいに戻ってくるランナーもいるなど、今回のPR活動の目標であった財田米のおいしさを全国に発信することができました。

また、ランナー全員に財田米パンフレットを配布しました。





### ■ 塩田農園所有水田での田植え体験学習（とうや小5年生11名）

令和5年5月23日、財田にある塩田農園の水田で標記体験学習を開催しました。

とうや小学校5年生11名が参加し、まず、学年代表1名が田植え機に乗り、機械による田植えを体験した後、全員が田んぼに入り、水稻（ゆめぴりか）の苗の手植えを体験しました。

田植え作業後は塩田満氏と塩田光氏による説明を聞いた児童から、北海道米の歴史や品種の違い、農業機械の購入費用や1枚の田んぼからどのくらいの財田米が生産されるものか、といった様々な質問が来るほど、児童は皆、興味津々の様子でした。

児童は、自分たちが手植えを行った水稻の成長を楽しみに、9月実施予定の稲刈り体験学習を心待ちにしておりました。



## ■ 北海道ふるさと・水と土保全対策指導員現地研修会

令和5年8月30日、財田自然体験ハウスにおいて「令和5年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 道央・道南ブロック現地研修会」が開催されました。

この研修会は、北海道中山間ふるさと・水と土指導員の資質向上を図る目的で開催され、財田地区の現地紹介、町ジオパーク推進課 中谷主査より「洞爺カルデラの成り立ちについて」を講演していただいた他、塩田満委員長より「財田米ブランド推進委員会の取り組みについて」と題し、これまでの財田米のPR活動について説明し、財田米に関する内容から財田米ブランド推進委員会における財田米の付加価値向上と地産地消の取組みについて話し、参加者の方々は財田・川東地区で生産される財田米がいかに魅力的なお米であるかを理解していただきました。

その後のグループ討議・意見交換会では、財田米に関する魅力を感じた意見があった一方で、今後のPR方法に関して「希少価値をもっと売りにする」、「財田米を使った加工品の着手」等、付加価値向上に向けた方策に関する貴重なご意見を賜りました。

昼食には、財田米含め地元食材を使ったお弁当を「湖の膳舎なかむら」さんからご提供いただき、参加者の皆様から「また食べに行きます。」とのお話があったなど、財田米の美味しさを伝えました。



## ■ 塩田農園所有水田での稲刈り体験学習（とうや小5年生10名）

令和5年9月7日、財田にある塩田農園の水田で稲刈り体験学習を開催しました。

春の田植え体験学習と同じくとうや小学校5年生10名が参加し、全員が順番に収穫機に乗り、好天に恵まれた今年の財田米の収穫体験を行ったほか、鎌を用いた手刈りによる昔ながらの収穫を小学生全員で体験しました。

収穫体験後の質問コーナーでは、「収穫機と手刈りでは収穫日数がどれほど違うのか」、「この田

んぼのお米はお茶碗で何杯分になるのか」といった子どもならではの視点の質問に対して、塩田満氏は自身の子どもの頃の話を変えながら分かりやすく回答していました。

子ども達はどうや小学校の学校給食で提供されている塩田満氏の財田米について、春の田植え体験学習と秋の稲刈り体験学習を通じて、財田米が美味しいお米である理由を学びました。



#### ■ 農業農村ふれあいフェスタ in 赤レンガでの財田米（新米）PR 即売会

令和5年9月30日、札幌市にある北海道庁旧赤れんが庁舎前で「農業農村ふれあいフェスタ in 赤レンガ」が開催されました。「北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業」を担当している道庁農政部農村振興局農村設計課より同事業の採択を受けている財田米ブランド推進委員会に対して、イベントへの出展案内があり、昨年に引き続き、財田米（新米）のPR 即売会を行いました。

当日は、財田米のポスターの掲示、パンフレットの配布等を通じて財田米のPR 活動を行いながら、塩田農園で準備した新米のゆめぴりか（2kg）、ななつぼし（2kg）の販売を行いました。また、財田米の食味を知ってもらえるよう財田米の購入者に対して、ゆめぴりか（2kg）にはななつぼしの2合（300g分）袋を、ななつぼし（2kg）にはゆめぴりかの2合（300g分）袋をプレゼントし、それぞれの財田米の味を楽しめる工夫を行いました。



## ■ J P O 1まつり（※札幌駅地下歩行空間）で財田米 PR 活動を展開

令和5年11月1日～2日にかけて、札幌駅地下歩行空間において「J P O 1まつり」が開催されました。北海道内のイベント情報や地域の魅力発信を行っている無料配布誌「J P O 1」を発刊している総合商研株式会社が主催するイベントであり、今回、洞爺湖町のふるさと納税返礼品のPR活動に合わせ、ふるさと納税及び財田米に関するパンフレット等を1つにまとめたPRセットの他、新たなLINE登録者に対しては、両日先着50名分ずつの財田米2合分の小袋をプレゼントし、財田米の魅力について町外の方々へPR活動を行いました。

両日合わせて100名の方へ財田米の小袋をプレゼントする中で、お客様から「財田米を食べたかったんだよね。」「また洞爺湖町に遊びに行くからね。」といった声があり、財田米をご存じの町外の方々と触れ合う機会となり、更なる財田米のPR活動の展開に期待を持てる活動となりました。

